

令和3年度

事業計画

付 令和3年度予算の説明



日本赤十字社 大阪府支部
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。



基本方針

1.はじめに

日本赤十字社は、1877年の博愛社創設時より、国内外での人道支援活動をはじめ、医療事業や血液事業、社会福祉活動等、様々な社会課題やニーズに応じた事業を展開し、その使命を果たしてきました。しかしながら、創立140年が経過し、日本赤十字社が置かれた環境は大きく変わり、自然災害の増加や甚大化はもとより、人口の偏在や格差の拡大、グローバル化、情報通信技術の発達等が進み、これらの動きは加速していくことも想定されます。こうした不確実性の高い社会環境下にあっては、より人道ニーズに柔軟に対応できる赤十字への変革が求められ、これまでの常識や経験、考え方にとらわれない抜本的な改革や見直しにチャレンジしていく必要があります。

2.「長期ビジョン」の趣旨と位置づけ

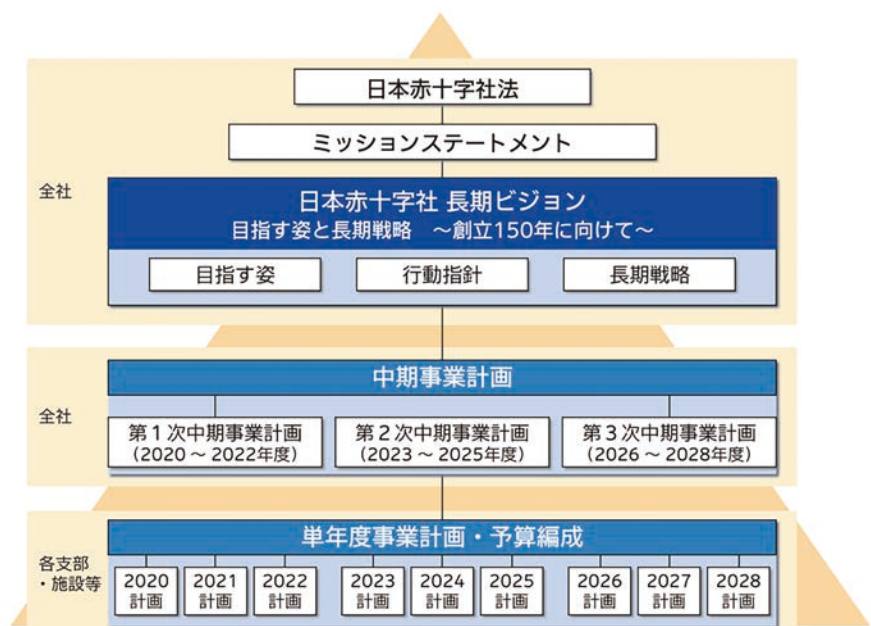
日本赤十字社がこれからの社会課題やニーズに柔軟に対応し、地域の期待に応え、創立150年に向けてその使命を果たし続けていくため、令和元年に「日本赤十字社長期ビジョン」を策定しました。

日本赤十字社が目指す姿「国内外における人道支援活動の“要”となり、我が国の地域医療・血液事業の中核を担う赤十字」を社内外に示すことで、組織の進むべき方向性の集束・横断的な結束を高め、より多くのパートナー（会員、ボランティア、寄付者等）の理解・協力を得ながら、更なる赤十字運動（ムーブメント）の推進を図ります。

また、この長期ビジョンに基づいて、本社・支部・赤十字病院・血液センター等において、より継続性・一貫性を持たせた効果的な中期事業計画や単年度事業計画の策定、予算編成等につなげていくものです。

3. 本計画の基本方針及び位置づけ

本社が策定した長期ビジョン及び中期事業計画に基づき、日本赤十字社大阪府支部の単年度事業計画を策定しました。今年度は、本計画に基づいて様々な赤十字活動を展開します。



目次

01. 事業について — P.4

国内災害救護



P.4

国際活動



P.5

赤十字ボランティア



P.6

青少年赤十字



P.7

救急法等の講習



P.8

医療事業



P.9

看護師の養成



P.9

社会福祉



P.10

血液事業



P.10

02. 運動基盤強化について — P.11

活動資金の募集

赤十字の広報

事業実施体制等の整備

03. 一般会計予算 — P.12

令和3年度予算の説明



国内災害救護



第4（近畿）ブロック合同災害救護訓練の様子
（災害対策本部）



新型コロナウイルス感染症にかかる自治体の避難所運営訓練
に協力し、防護服の着脱方法を指導する職員



熊本市人吉市での避難所の巡回診療（令和2年7月豪雨）

新型コロナウイルス等の感染症がまん延している状況下においても大地震、台風、集中豪雨等の自然災害が発生する「複合型災害」に対し、感染防止対策を徹底しながら、迅速かつ効果的な救護活動ができるよう、災害救護体制の一層の充実強化に取り組めます。

国内災害救護に活用する金額

2,783万円

災害救護訓練の実施・参加及び
行政・防災関係機関との連携強化

15回

- ・第4（近畿）ブロック合同災害救護訓練
- ・行政機関主催の救護訓練
- ・その他団体主催の救護訓練

救護員研修会の実施と救護員の養成

14回 240人

- ・救護員基礎研修会
- ・救護員ステップアップ・dERU※1研修会
- ・こころのケア研修会
- ・災害対策本部要員研修会
- ・救護資機材習熟研修会

医療救護活動のための資機材の整備

- ・災害救護車両 1台
- ・車両用非常電源 1台
- ・情報通信機器 3台
- ・dERU用ビデオ喉頭鏡 1台
- ・その他救護員用装備（救護服・安全靴等） 1台

※1 dERU（domestic Emergency Response Unit）：国内における大規模災害等で医療救護活動を行うことを想定した緊急仮設診療所用の資機材と要員。



国際活動

国際救援や開発協力等に活動できる人材の育成及び確保に努め、本社からの要員派遣要請に迅速に対応します。また、本社が支援している海外赤十字・赤新月社等の事業に、当支部からも資金を拠出して支援するとともに、職員等を派遣し、人的協力にも努めます。

国際活動に活用する金額

100万円

国際救援要員の養成

質の高い国際救援要員を養成するため、次の研修に参加します。

- ・ 国際救援・開発協力要員研修  1回
- ・ 安全管理研修  1回
- ・ 保健医療 ERU※² 研修  1回
- ・ 安全管理ワークショップ  1回

国際救援要員等の海外派遣

 国際赤十字から派遣要請があった際には、要員を調整のうえ、当支部から派遣します。

支部の国際活動（開発協力）への参画

インドネシア・コミュニティ
防災強化事業  100万円

※2 保健医療 ERU (Emergency Response Unit)：診療所 ERU (診療所や巡回診療 (地域保健等を含む1次医療)) と病院 ERU (手術・入院設備を備えた後送医療施設 (2次医療)) を合わせたもの。



災害対策のためにマングローブを植林する様子
(インドネシア・コミュニティ防災強化事業)



70m×50m という広大な敷地に 20 基以上のテントが
立ち並ぶ病院 ERU の実証展開 (於：高槻赤十字病院)



現地の医療スタッフに医療技術を伝達する医師
(二国間 パレスチナ赤新月社医療支援事業)



赤十字ボランティア



乳幼児施設等に寄贈するマスクを手作りする
裁縫ボランティア



府内の福祉施設等に訪問し、芸を披露する芸能奉仕団



防災啓発のため地域で炊き出し訓練を行う
箕面市赤十字奉仕団

地域に根ざした活動を行っている赤十字ボランティアが、世代や分野を越えて連携し、地域課題の解決に向けて活動できるよう引き続き支援するとともに、ボランティアの活躍の場の拡大を図ります。

赤十字ボランティアに活用する金額

3,463万円

地域・特殊・青年赤十字奉仕団の特色を生かした研修会などの実施

- ・基礎研修会、リーダー養成研修会、合同委員長研修会の実施
- ・赤十字ボランティアフェスティバルの開催



防災ボランティアを中心とした防災・減災活動の推進

- ・「親と子の防災セミナー」の開催
- ・赤十字ボランティア防災研修会の実施
- ・災害ボランティアセンター運営支援にかかる研修などへの参加



災害に備え、「おおさか災害支援ネットワーク」を通じた他団体との協働



青少年赤十字

次世代を担う若年層が赤十字運動に参加し、赤十字事業を推進することができるよう、教育現場のニーズに即した青少年赤十字活動の展開、指導者(教員)やメンバー(児童・生徒)の育成を図ります。

青少年赤十字に活用する金額

1,858万円

学校における青少年赤十字活動の推進

- ・防災教育、国際理解・平和学習、SDGsやキャリア教育などの出前講座の実施 
- ・「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!」を使用した、差別や偏見等に関する講座の実施

青少年赤十字指導者、青少年赤十字メンバーの育成

- ・小中高校生合同のリーダーシップ総合型トレーニング・センターや指導者養成講習会の開催 
- ・高校生メンバーを対象とした、ボランティア活動体験学習の実施

国際交流事業の実施

- ・マレーシアの青少年赤十字メンバーとの交流 



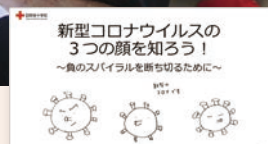
災害時の炊き出しを体験(ボランティア活動体験学習)



三角巾を使ったけがの手当を実践
(リーダーシップ総合型トレーニング・センター)



小学校で新型コロナウイルス感染症について講義する職員





救急法等の講習

救急法等の講習を通じて、いのちと健康を守る知識と技術を広く府民の皆様に普及し、健康や安全に対する意識の向上、さらには自助共助の取組の促進を図ります。

救急法等の講習に活用する金額

3,573万円

救急法



200回



6,300人

水上安全法



33回



2,060人

健康生活支援講習



59回



1,430人

幼児安全法



90回



2,000人

赤十字防災セミナー※3



37回



1,110人



十分な距離を確保して行う赤十字幼児安全法講習



オンライン講習で心肺蘇生やAEDの使い方を指導する救急法指導員



講習で使用する冊子の内容を説明する主任指導員
(赤十字防災セミナー指導員研修)

※3 令和3年度より「赤十字防災啓発プログラム」講習から名称を変更し、赤十字防災セミナーとして普及します。



医療事業

大阪府内には、大阪赤十字病院と高槻赤十字病院の2つの病院があります。当支部は、両病院と協調・連携を図りながら、総合的調整のもと医療事業の推進を行っています。

また、赤十字の使命である災害時に医療救護班を迅速に被災地へ派遣するための体制整備や、災害救護及び救急医療用医療機器等の整備に助成します。

医療事業に活用する金額

12,812万円

災害救護及び救急医療用医療機器の整備助成

・超音波画像診断装置

 5台

新型コロナウイルス患者受入体制整備の支援



徹底した感染予防策を講じて診療する医師
(新型コロナウイルス感染症への対応)



看護師の養成

大阪赤十字看護専門学校は、赤十字の使命である人道を実践できる看護師を養成します。

当支部では、同看護専門学校生に国際人道法、災害看護論等の赤十字教育に必要な講義・実習を行い、救護看護師としての育成に努めます。

併せて、優秀な赤十字看護大学生の修学支援を目的とする「日本赤十字社大阪府支部奨学金」の制度を設けて、高度な知識や技能を有し、大阪赤十字病院において将来の指導的な役割を担う看護師の育成に努めます。

看護師の養成に活用する金額

1,565万円

救護員となる看護師養成経費の助成

高度医療を担う看護師の育成

・日本赤十字社大阪府支部奨学生

 20人程度



ナースキャップを受け取った看護学生たち(戴帽式)



社会福祉

大阪赤十字病院附属大手前整肢学園は、医療型障がい児入所施設として大阪赤十字病院の診療部門各科並びに検査部門と密接に連携し、高度な医療サービスを提供しています。

当支部では、同学園の入所児の生活向上に資するよう機器整備に助成します。



入園者とその家族、職員みんなが笑顔で楽しむ夏祭り
(大手前整肢学園)

社会福祉に活用する金額

168万円

療育環境の整備助成

・入所児用給茶機  1台



血液事業

当支部では、大阪府、各市町村、大阪府赤十字血液センターと連携を図りながら、幅広い年齢層の人々に献血の理解を深め、協力いただけるよう情報を提供しています。

府内の医療機関で必要な血液製剤をより安全に安定的に供給できるよう、血液運搬車の整備に助成します。



けんけつちゃんと高校生メンバーと一緒に呼びかけ

血液事業に活用する金額

768万円

車両の整備助成

・血液運搬車  1台



活動資金の募集

地域赤十字奉仕団のご協力による地域に根差した活動資金の募集を基盤として、利便性、ニーズに配慮した活動資金の募集方法を強化し、新たな協力者の確保に努めます。また、社会貢献活動に取り組む企業・団体とのパートナーシップ事業を推進するとともに、遺贈・相続寄付の受け入れを行っている団体としての広報活動に努めます。

地域住民をはじめ法人・団体など多くの会員の皆様には、積極的に情報の提供を行い、赤十字運動にご理解ご協力いただくことにより、財政基盤の安定化を図ります。



効率的、効果的な活動資金の募集

- ・ダイレクトメールによる依頼 年3回
- ・遺贈・相続財産による協力案内 など



法人の社会貢献活動推進

- ・寄付金付自動販売機の設置
- ・活動資金募金箱の設置



赤十字会員への広報

- ・広報紙等の発送 年2回
- ・終活セミナーの案内



地区・分区との連携強化



大阪日赤有功会^{※4}との連携



大阪府赤十字大会の開催

※4 大阪日赤有功会：赤十字への活動資金協力やボランティア活動によるご功績により有功章を受章された方々で構成されている当支部を支援する団体。



事業実施体制等の整備

赤十字事業の実施及び円滑な運営を図るため、職員の育成、大阪赤十字会館の適正な管理に努めます。



人材育成

多様化するニーズに対応し得る専門性や総合的に判断できる視野を有する職員を育成するため、研修を計画的に実施します。

また、支部・赤十字病院・血液センターのグループ力を高めるために日頃から連携を図り、人材の交流を推進します。

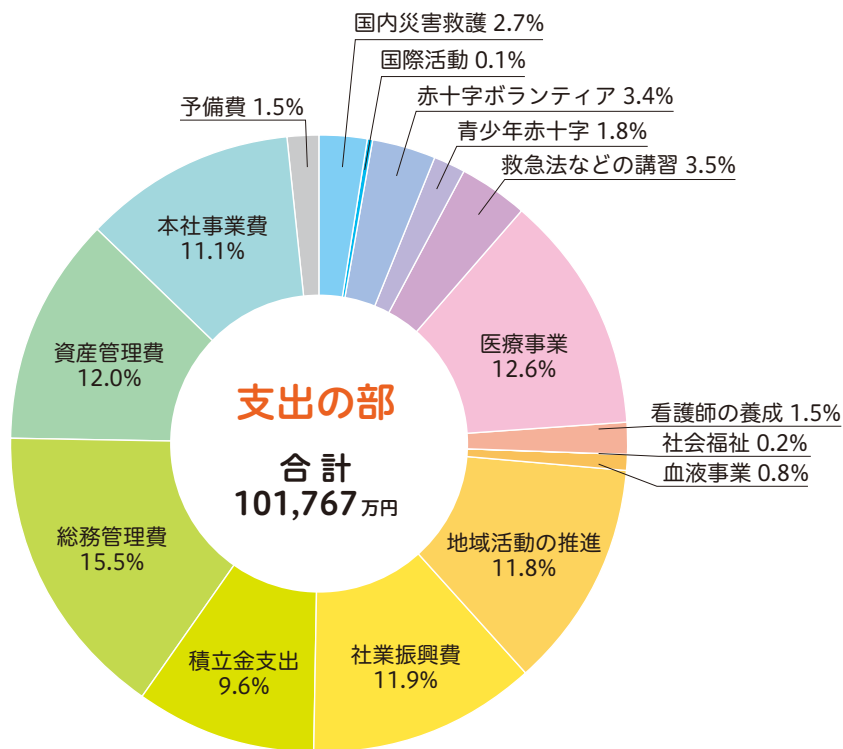


大阪赤十字会館の適正管理

当会館は、昭和50年に建設後、40年以上が経過する中、会館内の一部設備には老朽化が認められ、機能維持のために会館の継続的な維持管理・修繕が必要となっています。

そのため、平成30年度に今後20年間に亘る中長期修繕計画を策定し、建築コンサルタントの厳格な監理のもと、効率的な修繕を行い、経費節減に努めます。

令和3年度予算の説明



支出の部

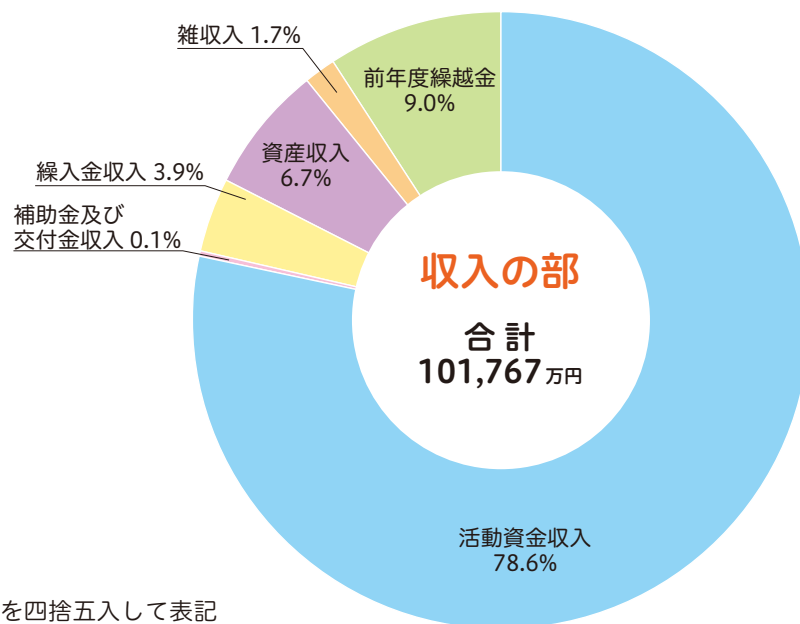
(万円)

国内災害救護	2,783
国際活動	100
赤十字ボランティア	3,463
青少年赤十字	1,858
救急法などの講習	3,573
医療事業	12,812
看護師の養成	1,565
社会福祉	168
血液事業	768
地域活動の推進	12,000
社業振興費	12,060
積立金支出	9,800
総務管理費	15,755
資産管理費	12,211
本社事業費	11,325
予備費	1,526
合計	101,767

収入の部

(万円)

活動資金収入	80,000
補助金及び交付金収入	119
繰入金収入	4,000
資産収入	6,824
雑収入	1,687
前年度繰越金	9,137
合計	101,767



(注) グラフ内の割合 (%) については、小数第二位を四捨五入して表記しているため、合計が100%にならない場合があります。